

## 第3章 漢方の力

## ◆漢方は本当に効くの？

漢方薬が体のバランスを整えるので、効果がマイルドだ、あるいは西洋薬ほど効果が期待できないと考える人は少なくありません。

漢方薬の効果はどのようなものでしょうか？

ここでは、西洋薬が十分に効果を発揮できなかった例に対して、漢方薬が非常に高い効果をあげることができた一例として、皮膚疾患に対する漢方の力をご紹介します。

患者さんは51歳の男性で、アレルギー性皮膚炎にお悩みの方で、「十味敗毒湯加大黄(じゅうみはいどくとうかだいおう)」という処方服用し、改善した例です。

では、症例です。

## 【主訴】全身の皮疹とそう痒

【現病歴】10年前から全身にそう痒を伴う5～10mm大の隆起した皮疹を生じました。病変は赤褐色で、表面は化膿傾向がありますが、熱感や滲出液の症状はありません。皮疹の分布は島状で周辺の皮膚は健常。そう痒は夜間に強くなり、温熱刺激、飲酒、香辛料摂取でも増悪します。初夏と秋を除いて年中生じ、便秘もあります。近くの皮膚科でアレルギー性皮膚炎と診断されて、抗アレルギー薬で治療されていましたが、効果がないため、家族のすすめで漢方治療を受けることにしました。

こちらが、初診時の皮膚の状態です。

【現症】身長173cm、体重57kg、血圧116/60mmHg。やや赤褐色調で化膿傾向のある膨疹が四肢を中心に体幹と顔面に点在していた。舌は淡紅色で薄く白苔が付着し、舌下静脈は軽度に怒張していた

臨床経過です。島状の病変分布、非滲出性(ひしんしゅつせい)、化膿傾向などを参考に「十味敗毒湯(じゅうみはいどくとう)」を処方しました。7週後には便秘に対して「大黄甘草湯(だいおうかんぞうとう)」を追加しました。

6カ月後、冬で皮疹は再び悪化しましたが、例年よりは良くなりました。2年目の夏は症状が軽く、1年5カ月後になって初めて効果が実感できました。

翌冬は「十味敗毒湯(じゅうみはいどくとう)」を増量、皮疹はほとんど増悪しませんでした。3年目夏には皮膚の凹凸がほとんど消失しました。飲みやすさと便秘状況から、3年目の冬に瀉下剤を「大黄牡丹皮湯(だいおうぼたんぴとう)」に変更し、3年4カ月後も経過は良好でした。

このように、皮疹がほとんど認められない状態にまで改善しています。

治療前後を比べてみると、このようなはっきりとした改善効果が認められます。今回のケースでは、1年以上の長期間の服用でしたが、西洋医学的な治療法では完治が難しかった難治性の皮疹が改善できました。このような症例は、漢方治療において数多く存在しています。